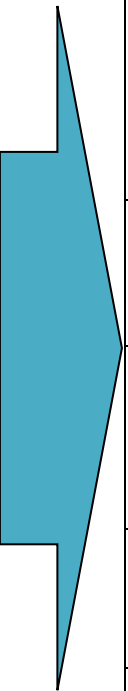


令和7年度 授業改善推進プラン【6年】

小平市立小平第十四小学校

振返りの視点			児童の実態	指導上の課題
学校経営目標（短期）	学力向上	主体的・対話的で深い学びの実践	○学習者用端末を活用して主体的に課題解決学習に取り組んでいる。 △自分の考えを表現したり、対話を通して考えを再構築したりしていく。	・主体的・対話的に学べるような課題の設定。  ・全ての児童が自分の考えを表現できる指導法の工夫。
		基礎学力の定着	○国語と算数を中心に基礎学力が徐々に定着してきている。 △自分の考えを表現（発表）することに課題が見られる。	・朝学習の時間などを使った、計画的な復習の推進。 ・様々な表現の仕方を授業の中に取り入れていく。
		体力の向上 運動への関心・意欲の向上	○体育科の学習では、運動に意欲的に取り組む児童が多い。 △自ら課題を設定し、課題解決に向けて場や動きを工夫していく。	・運動の質を高めていく。 ・一人一人の学習のめあてを確認し、個々の課題に合わせた学習過程の計画と実施。
	健全育成	道德教育の推進 異学年交流活動の充実 異文化理解教育の推進	○異学年交流によって、思いやりの気持ちや責任感などを育んでいる。 △児童が自らの道德性を養う中で、これからの課題や目標を見付けていく。	・計画的な異学年交流の実施。  ・道德の学習と日常生活の内容を関連付ける。



教科等	授業改善の視点	具体的な取組	評価
国語	1 「書く」活動の継続 2 学校図書館の活用 3 読書の推進 4 「話す、聞く」活動の充実	・表現する際の視点、文章の構成を明確にし、見通しをもって「書く」ことができるようにする。 ・各教科や総合的な学習の時間に図書資料を活用させる。 ・朝読書の時間や読書月間を効果的に活用し、日頃から読書に親しむ環境をつくる。 ・朝学習の時間を活用し、漢字学習や言葉学習に取り組み基礎基本の定着を図る。 ・家庭学習では、音読を学習者用端末で録音し、自分自身の音読を客観的に見ることで、表現力の育成を図る ・交流活動の際には、言語についての視点を明確にする。	
社会	1 資料の読み取り（解釈・説明）の習熟 2 用語を適切に活用した意見の交流	・写真やイラスト、グラフなどの資料を正確に読み取らせ、読み取ったことを基にして、自分の考えを表現させる。 ・学習者用端末を活用し、友達と考えを交流することを通して、多様な見方・考え方に気付けるようにする。	
算数	1 問題解決的な学習の充実 2 ノートの取り方や発表の仕方 3 習熟度別指導の徹底	・問題解決的な学習展開を継続して行う。 ・自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えを理解したりする場面を設け、思考力・表現力の向上を図る。 ・習熟が進んでいる児童は既習事項を踏まえて、さらに思考を促すような問題に取り組ませる。	
理科	1 問題解決的な学習の充実 2 考察する力の向上	・問題・予想・実験・結果・考察・結論の段階を意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・観察や実験結果から、科学的に考察し、友達との交流を通して、考えを深められるようにする。	
音楽	1 表現活動の工夫 2 鑑賞活動の充実	・歌詞の意味や、強弱・速度を表す記号に着目しながら表現方法を様々な試す時間を設定し、思いや意図を言葉や音楽で伝え合って表現する。 ・旋律の動きを線で可視化したり、様々な楽器の音色を知って聴き分けたりする活動を通して、曲想の変化と音楽の構造の関わりに目を向ける。	
図工	1 様々な表現方法や素材の体験 2 鑑賞活動の充実	・様々な表現方法や素材に総合的に触れ合うことで、児童の意欲や発想を高める。 ・作品を鑑賞し合うことで、他者の作品のよさに気付き、自分の作品の創作に生かす。	
家庭	1 よりよい生活のための実践（生活の見直し・気付き）	・日常生活を見直し、改善できるようにする。 ・調理、洗濯などの知識・技能を確実に身に付けさせ、家庭でも継続して実践できるようにする。	
体育	1 全ての児童が楽しさを味わえる教材の提示 2 体力テストの結果に基づく重点的な指導の実践	・運動が苦手な児童も楽しめるように、ゲームのルールや教具を工夫していく。 ・体づくり運動や十四小トライアルなどの体育的活動の充実を図り、児童が様々な運動に親しめるようにする。	
外国語	1 学習展開のスタンダード化 2 小・中連携の強化	・状況設定→表現練習→受け答え練習→会話での交流のように、一連の学習展開を定着させ、主体的に学習できるようにする。 ・帯活動による会話練習や、四線ノートを使い、英語に慣れ親しむ活動の導入を行う。	
道德	1 話し合い活動や振り返りなど授業形態の工夫 2 道德的实践への継続 3 生命尊重・いじめ防止に関する心情育成	・多様な考えに触れられるよう「アンケートフォーム」など学習者用端末を活用する。 ・考えたことを実践できるように、係活動やあいさつ週間などの活動を充実させる。 ・学期に1回以上、生命尊重やいじめ防止に関する授業を行う。	
総合的な学習の時間	1 探究的な学習の推進 2 各教科の知識を相互に関連付けた学習	・カリキュラム編成時に、他の教科等との関連を図りながら、身に付けるべき能力を明確にして探究的な学習活動を行う。 ・他教科の知識を統合できるように、課題を見付ける場面や解決場面で発問や助言を工夫し、様々な視点で考えさせる。	
学級活動	1 学年(学級)文化の創造 2 きょうだい学級の関わり	・一人一役の実行委員会、クラス遊びなどを通じて、学年(学級)の前向きなカラー・文化を創り上げる指導を続ける。 ・全校遠足や十四小まつりなどの行事で他学年との交流を図る。	